67 バスビー 『ロンドン下層社会の服装』

Busby, Thomas Lord. Costume of the lower orders of London design'd & engraved from nature. London, Baldwin, Cradock and Joy, 1820. 21 plates 22.5×23.5 cm 〈383.133-B〉
Hiler p. 129 Colas 491 Lipp. 1025 Beall E40

ロンドンのミニアチュール肖像画家バスビーによる19世紀初頭のロンドンの物売りや下層民の扉を含めて21枚の手彩色線刻銅版画の服装図集。各頁の下にそれぞれ英語のタイトル及び図版の発行された年月日（1819. 11. 1～1820. 8.15）が付されているが，解説文はない。同じ作者によるパリの下層社会の服装を描いた（**65**）と同種である。主題の配列は次の順になっている。扉・ポスター張り（ポスターには本書の書名が英語とフランス語で刷りこんである），ヴァイオリン弾きの物乞い，ストーブ売り，ヴァイオリン弾き，物乞い，ミルク売りの娘，敷物売り（背景の貼紙に This day is published The Costume of the Lower Orders of London. 1820. 1. 1と記されているが，実際には図版はこの期日以降にも発行されているので，これは単なる英国人気質のユーモアと思われる），呼び売り商人，荷馬車屋，鳴鐘屋，魚売り娘，うさぎ売り，りんご売り，夜回り，メーデー，靴みがき，ごみ屋，消防士，煙突掃除夫，郵便屋，パイ売りである。

18世紀末のイギリス産業革命以降のロンドンは驚異的な発展をみせた。その要因は交通機関の発達であり，イギリスの各地から多種多様の職を求めて人々が殺到した。角山栄氏によれば，イギリスの資本主義は異民族，なかでもアイルランドからの移民労働力を下層の労働として発展することができた。彼らの共通点は定住せずに街頭をさまよいながら生活し，多くは街頭商人と呼ばれ，①街頭物売り――魚，野菜，果物，飲み物，新聞売り，古本，古靴，古着類から，小動物などを売るもの。②廃品回収――物を売るのではなく，古着，古傘，瓶，ガラス，こわれた金物類，古新聞などを買い入れる廃品回収業。③拾い屋――タバコの吸いがら，犬の糞拾い，石炭拾い，どぶ浚い（下水溝にもぐり，底の泥をあさり，金目になるものをよりわけ，これを売って生活していた），泥雲雀（石炭のかけらなどを泥の中から拾い上げて食糧と交換して生活していた）など。河を漁る放浪清掃人などは，最下層民の仕事であり，泥雲雀は少年たちや他の仕事のできなくなった老婆たちの仕事だった。④街頭芸人――軽業・曲芸，道化師，人形や動物を使った芝居，見世物，似顔絵書きなどの街頭画家，ギター，ハープ，ヴァイオリンなどを弾く音楽家，門付けなどの多様な芸人たち。⑤街頭職人――金物細工師，彫金師，木彫師，傘，時計，鍋などの修繕屋，ナイフや剃刀のとぎ屋，小物屋など。⑥街頭労働者――街頭清掃人，こえ扱み，煙突掃除夫，街燈の点燈夫，広告配り，馬ひき，たいまつ持ち，靴みがきなど。――に分けられる。彼らの多くはアイルランドからの移民であるため，特異なスラング（一種のケルト語）を用いていた。下層民は道徳心に欠け，持続的労働力をきらい，けんか好きで，宗教心に欠けていた。（生活の世界歴史10）（佐藤）

13図　Billy waters　1820年頃　バスビー作　**→67**